

令和7年度 第2回土佐和紙総合戦略推進会議本会議 議事要旨

- 1 開催日時 令和7年3月19日(木) 13:30~15:30
(場所:高知県立紙産業技術センター 2階 研修室)
- 2 出席者 出席者名簿のとおり
- 3 議題 ①令和7年度各基本方針毎の活動報告
②令和8年度の取り組みに向けての協議

4 議事要旨

議題①令和7年度各基本方針毎の活動報告

基本的には、資料「令和7年度第2回土佐和紙総合戦略推進会議 本会議資料」を用いて、事務局より令和7年度活動内容についての報告。

- ・関連したトピックについては、各委員より取組み内容の報告を行っていただく形式とした。

各委員からのトピックに対する報告は次のとおり。

○文化財保存事業費補助金の申請状況

【歴史文化財課】吉村委員(山崎委員代理):

- ・令和7年度については申請までは至らなかったが、文化庁に計画書を提出し、内容に関して了承を得ることができた。正式な申請については4月に入ってから行い、令和8年度事業から補助金をいただくような流れになるかと思う。

○「いこうち」の活用について

【中山間地域対策課】西岡委員(片岡委員代理):

- ・関係人口を増やすことを目的として、令和7年6月末からスタート、
- ・お手伝い終了後、後に地域の方から改めて直接参加者に連絡があり、再度作業のお手伝いを行ってもらったという事例があった。プログラムをきっかけとして繋がっていただき、地域から参加者へ個別にアプローチを行ってもらい、関係性を深めてもらうというところが、狙いの一つとしてある。こういった形で、どんどん拡充を図っていきたい。

【高知大学教授】田中副委員長:

- ・「交流」という意味ではとても良い機会になったと思う。今後は、単純に交流というだけでなく、産地で働く上の仕事の提供であったり、移住する上での参加者家族の了承を得ることができるようになってくるとより面白くなると思う。

○土佐和紙保存会の活動支援

【歴史文化財課】吉村委員(山崎委員代理):

- ・土佐和紙保存会の方々でも、高知県保護無形文化財指定の土佐和紙5種の中で漉いたことがないものがあるというご意見をいただいた。そのため、2月に「狩山障子紙」について、原料作りか

ら実際に漉くところまで研修を行った。

【紙産業技術センター】河野委員：

- ・3月11日、土佐和紙保存会の方々に向け、「土佐和紙の歴史」という題材にて、研修を実施。
- ・諸説ある部分も多いが、戦国時代頃の史実では、きちんとしたエビデンスのあるものが残っており、このころから土佐和紙は繋がっているという形のお話をさせていただいた。

※参加した職人からの意見

【オブザーバー】：

- ・全体で集まって情報共有を行うことが少ないため、技術面だけでなく、歴史についても職人同士で共通認識を持てて良かった
- ・どういう過程で現代まで継承されてきたのかを学べて、とても勉強になった。

【紙産業技術センター】河野委員：

- ・歴史の調査については、戦国時代までで止まっているが、エビデンスのある史実を集め、また開催するようにしたい。次回開催の際は、手すき和紙協同組合や土佐和紙振興会等、広く周知するようにしていく。

○R7 長期研修修了生（H・Nさん）のその後の動向について

【オブザーバー】

- ・現在は、紙関係の会社に勤めながら、同時に自身の作品制作に取り組んでいる。また、ワークショップ等も積極的に参加していただいている。

○商品開発に関する技術面での支援について

【紙産業技術センター】河野委員：

- ・毎年3000件ほどの紙産業全般に関する技術相談がある。2月末時点で、令和7年度で土佐和紙関連で技術支援を行ったのは7件。内訳としては、紙を糸にして布を作る紙布であったり、レーザー加工を施した和紙製品などがある。そのうちの 하나가、年度内に商品化される見込みである。

○海外展開への支援

【産業振興センター】前川委員：

- ・パリショールームでは、内装の壁紙や落水の紙について現地の方からお声がけがあった。
- ・フランスの著名な折り紙アーティストから、土佐和紙の強度や耐水性について評価を得ている。昨年12月、その方を高知に招待。紙関連の県内企業等に連れて行き、土佐和紙について学んでいただいた。

-----質疑応答、意見-----

○作業場の確保について

【高知大学教授】田中副委員長：

- ・新しく担い手となった方々の作業場の確保について、今ある施設を利用していくことも大前提としてありだと思うが、新しい作業場を開拓することも検討が必要ではないか。

【事務局】：

- ・令和8年度より、紙の博物館に設置されてある手すき実演場が、利用していた職人さんが引退される関係で使用者不在の状態となる。紙の博物館としては、実演を兼ねて作業場として利用してもらいたい方針とのこと。作業場の問題に対する解決策の一つになるのではないかと考える。

○原料について

【高知大学教授】田中副委員長：

- ・土佐和紙の原料について、いつ原料不足になってもおかしくない状況である。他県では、農家さんと原料生産と買い取りに関する契約を結ぶなどして、本格的に対策に動いている。高知県においては、原料生産に関し、楮農家さんに依存していた部分が大きかったので、他県の状況なども踏まえて今後を見据えて検討していけたらと思う。

○がんびについて

【高知大学教授】田中副委員長：

- ・「越前・鳥の子紙」について、ユネスコ登録がほぼ確実となっているが、あちらでは、がんびの発芽率がゼロで生産状況が壊滅的となっており、本格的に生産環境を探しているところである。この話を受け、高知県においても、楮だけでなく、がんびの生産にも注力していくべきではないかと感じた。

議題②令和8年度の取り組みに向けての協議

令和7年度の報告内容を踏まえ、事務局から令和8年度施策の提案

以下、会議にて取り上げた各トピック

◆KOCHI SDGs マークの取得活用について

◆高知国際版画トリエンナーレ展、ロードマップ及び和紙データシートについて

◆令和8年度補助金について

- ・高知県伝統的工芸品産業等設備投資支援事業費補助金
- ・高知県伝統的工芸品産業等普及促進事業費補助金
- ・高知県伝統的工芸品産業等後継者育成対策事業費補助金

◆紙の博物館の利用について※

◆商品開発、定番メニュー化の支援について

その後、資料「第2期土佐和紙総合戦略（令和8年度改正版）」にて、土佐和紙総合戦略の令和8年度改訂案について説明。委員から異議が無かったため、案のとおり改訂することとした。

-----質疑応答、意見-----

○設備投資支援事業費補助金について

【中央会】松井委員：

- ・中央会が準備している補助金では、事業計画や設備投資についての具体的な計画の提出等、厳しい要件を設定させてもらっており、伴走支援を行いながら事業者申請を行ってもらっている。今回ご紹介いただいた設備投資補助金に関しては、どの程度のレベルで申請が行われるものなのか？

【事務局】：

- ・申請を煩雑にすると利用者が減ってしまうので、A4サイズ1枚程度のシンプルな様式とし、県担当とのやり取りの上で申請できる程度のものでしている。"製造に直結する設備投資"を要件としているため、要件に合致した申請となるよう、密にコミュニケーションを取りながら事業者の伴走を行う予定。

【工業振興課】津口委員長：

- ・議会議決後である24日以降に正式に組合等にご紹介させていただく。補助金についてのチラシも作成しているので、改めてご覧いただけたらと思う。

○商品のデータシートについて

【小津和紙】木村委員：

- ・他産地では商品に関するデータシートをつけてくれることが多いため、土佐和紙の方でも同様に添付していただけたらありがたい。
- ・また、時折こちらに後継者に関する問い合わせがある。その際に連絡先を伝える資料等があれば紹介していただきたい。

【事務局】：

- ・土佐和紙振興会の連絡先等を記載したショップカードがあるため、それを提供させていただく。

【工業振興課】津口委員長：

- ・データシートの証明元については、どのようになっているか？

【小津和紙】木村委員：

- ・書式については産地で統一し、内容は個々で記載していることが多い。

【事務局】：

- ・参考として個々の項目等について質問させていただくかもしれないので、その時は改めて協力をお願いしたい。

○トリエンナーレ展について

【高知大学教授】田中副委員長：

- ・土佐和紙を利用した版画家だからこそその視点や理解できる情報があると思うため、そこを取り込むことができるとより良い展示会になるのではと思う。

【事務局】：

※トリエンナーレについての補足

- ・第13回展からは、土佐和紙の振興のための版画展という立ち位置に立ち返り、版画家に「版画紙と言えば土佐和紙」と思ってもらえるようなブランディングを目指している。そのための第一歩として、産地に来ていただく状況作りをしている。単純に和紙購入や体験をしてもらうだけでなく、その後の関係構築のためにもトリエンナーレを活用してほしいと考えている。

○KOCHI SDGs について

【高知大学教授】田中副委員長：

- ・理想的な展開として新しい事業展開に結びつけば良いと思う。

○商品の販売先について

【高知大学教授】田中副委員長：

- ・東京や大阪のアンテナショップを活用して、土佐和紙商品の販売ができたら良いと思う。
また、伝統工芸スクエアに和紙ブースがあるが、土佐和紙商品についてほとんど設置されていない状況となっている。

【事務局】：

- ・伝統工芸スクエアについては、展示品の入れ変わりが無く、並べ方も統一感がない状態となっているため、組合の方でまたご確認いただければと思う。

【手すき組合】濱田委員（大勝委員代理）：

- ・また確認するようにしておく。

以上をもって、令和7年度第2回土佐和紙総合戦略推進会議本会議を閉会した。